

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 目指す教育 質実剛健の校訓のもと、高等学校における普通教育と農業に関する専門教育を施すことにより、社会人基礎力を養い、農業教育で培った知識・技術を活かし、生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を備えた、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>2 目指す学校 京都府農業教育の唯一の専門高校として、地域や関係諸機関等に信頼される学校づくりを基本とし、 (1) 社会から求められる人材を育成する学校 (2) 農業や農業に関連する分野で活躍する職業人を育成する学校 (3) 農業専門高校にふさわしい高度な専門性を追求する学校を目指す。</p> <p>3 目指す生徒 (1) 夢と希望を持ち、未来を展望する力をもつ生徒「展望する力」 (2) 生命を慈しみ、他を思いやり、つながる力をもつ生徒「つながる力」 (3) 質実剛健の気風を培い、挑戦し続ける力をもつ生徒「挑戦する力」</p>	<p>1 成果 (1) 生徒の実態に応じた組織的な生活指導と寮教育の取り組み、公開授業や生徒による授業アンケートによる授業改善と教科指導による基礎・基本の定着と学力向上とともに3年間を見通した計画的な進路指導により希望進路実現に取り組んだ。 (2) GLOBAL G.A.P. 継続認証や農芸祭をはじめ、農業専門高校ならではの取り組みを学科・コースの特色に応じ推進し、農業クラブ活動、技能五輪全国大会など各種競技会等に計画的に参加し、「学びの深化」に取り組んだ。 (3) 新しい高等学校学習指導要領の趣旨と農業の6次産業化を踏まえ、新しい時代に対応した教育の推進と専門教育の一層の充実を図るため、令和2年度を目途にスタートする学科改編構想(A C C E S S)を定めた。 (4) 新聞をはじめ南丹市CATVによる報道等を通じた情報発信により、本校の教育活動に対する地域や保護者の理解を促進するとともに、継続して保護者対象の学校アンケートを実施し、教育ニーズの受信と改善に努めた。</p> <p>2 課題 (1) 生徒の自発的な学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、自分の将来へのより高い目標を持たせ、生徒の社会的自立と希望進路を実現すること。 (2) 地域との連携に係わる取組の推進によって、教育機関としての信頼度を高め、募集定員を充足する志願者を確保すること。 (3) 部活動、農業クラブ専門部への加入率を高めるなど諸活動の活性化と心身共に健康な生徒の育成を目指し、組織的、計画的な取組をさらに進めること。 (4) 農業専門高校として、専門性の高い研究や府農林水産部、地元行政機関と連携した農業の担い手育成に関わる取り組みを推進すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「継続と達成・目指せ Next Stage!!」</p> <p>2 学校経営の重点事項 (1) 主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上 ①主体的・対話的で深い学びを目指し、授業・実習における指導方法の工夫・改善と基礎的、基本的な事項の確実に定着を目指す。 ②教科横断的な教科活動に取り組むことにより、学科のねらいやコースの目指す生徒像の実現に寄与するとともに、農業教育の活性化に資する。 ③生徒の学力向上に資する生徒による授業アンケートと適切な評価規準に基づく適正な評価を実践する。</p> <p>(2) 専門高校としての特色ある活動の推進と生徒の成功体験の蓄積 ①学科・コースの特性を踏まえ、「農業の6次産業化」の視点に基づく教育活動の推進に取り組む。 ②農業クラブにおける「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 ③A C C E S Sへの円滑な移行を図るため、必要な調査・研究を継続し、全校体制で学科改編を成功させるための取組を推進する。</p> <p>(3) 積極的なキャリア教育の実践による生徒の個性・能力に応じた進路実績の構築 ①3年間を見通した進路学習、インターンシップ等により、適正な勤労観と職業観を計画的に育成する。 ②地域、企業、大学等と連携し、外部人材を積極的に活用する教育活動等により、職業人としての高い倫理観と社会人基礎力を培う。</p> <p>(4) 人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着 ①保護者、関係機関との連携を軸に、すべての教育活動を通して生徒密着型・問題解決型の生活指導を組織的に推進する。 ②学校生活、寮生活をとおして適切な社会性を身につけさせ、自立心、協調性、責任感を育むなど、全人的な教育活動を実践する。</p> <p>(5) あらゆる教育活動とおした人権教育の推進 ①自他の人権と生命を大切にし、良識ある公民として共生社会を主体的に生きる力を育成する。 ②特別な支援を要する生徒の教育ニーズを適切に把握し、関係機関と適切に連携し、組織的な合理的配慮による特別支援教育を推進する。</p> <p>(6) 信頼される開かれた学校づくりの推進 ①「農芸祭」をはじめ日頃の学習成果発表の場を数多く確保し、生徒の姿を披露するなど教育活動を広く府民に公開する。 ②新聞広報、南丹市CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信するとともに、新学科構想を積極的に発信し、定員を充足する志願者を確保する。</p>

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策（実践項目）	評価	成果と課題
管理職	組織運営	全教科・科目における主体的・対話的で深い学びの実践により基礎・基本の定着と学力向上に取り組む。	学力向上を適切な指標(例G T Z、資格取得など)により確認し、指導の工夫改善に資するとともに、観点別評価に基づく適正な評価規準による評価を行う。	B	<p>生徒による授業アンケートを実施し、全教科・科目において「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に取り組んだ。また、この取組が生徒の基礎・基本を定着させるとともに、観点別評価や評価規準の見直しにつながった。</p> <p>本校の特色ある地域や外部機関と連携した取組が、全国レベルで評価され、キャリア教育の分野において文部科学大臣賞を受賞するなど、生徒の本校への帰属意識や自己有用感の涵養につながった。</p> <p>学力向上を分析する適切な指標の明示、組織的で計画的な取組の一層の推進とともに、競技会等の上位入賞を目指した指導体制、指導時間の確保等については更なる工夫改善が必要である。</p> <p>学科改編に伴う教育内容の充実や令和4年度入学生から始まる新学習指導要領の完全実施に向けた準備を一層加速させることが必要である。</p>
		農業専門校としての特色ある活動を通して、各自の専門的な知識・技術レベルと有用性を自覚させ、地域社会を活性化させる意欲を育む。	地域・企業・大学との連携活動や農業クラブ活動等に積極的に取組み、専門性を高めさせるとともに、本校への帰属意識と自己有用感を涵養する。	B B	
		組織的・計画的なキャリア教育の実践により、職業人としての高い倫理観を育成し、希望進路を実現する。	全ての教育活動において人権意識の高揚を図り、健全な勤労観の体験的な育成に努め、効果的な進路指導を実践する。	B	
事務部	学習環境	奨学金をはじめとする支援制度の周知を図り、学校預り金等の滞納家庭を解消する。	教室掲示、プリント配布はその都度速やかに行い、学校預り金等滞納気味の家について、担任との連携を密にすることで、早期に解決を図る。	B	<p>奨学金をはじめとする支援制度の周知については、十分に図れた。一方で学校預り金等の滞納気味家庭については減少しているが、固定化してきており、新たな方策の必要性を感じる。</p> <p>学校予算は前年度比減の状況で、光熱水費をはじめとし節約を行ったが、充分ではなかった。取り組んでいるところといないところの差が広がりつつあり、具体的に日々の啓発を行っていく必要がある。</p>
		学校予算の効率的な執行に努める。	学校運営費、実験実習費の今までの枠にとらわれず、学校運営に支障を来さないよう、多岐にわたって経費節減を行っていく。	B	
教務部	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上	社会人として最低限求められる基礎学力の定着を図り、組織的かつ継続性を持った学習指導の確立に向け、授業・実習における指導方法の工夫・改善を図る。	B	<p>公開授業週間を年2回実施することで、基礎学力の定着を目指した授業改善を図ったが、新学習指導要領の趣旨に沿った主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた授業内容の確立や、評価方法の在り方について課題が残る。</p> <p>今後は学科改編を踏まえた教科横断的な授業の取組や、ICT 機器の整備とともにその利活用に向けた情報教育の推進が必要である。</p>
		人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着	専門高校の特色を活かした学習活動の推進により、生徒の成功体験の増加を図る。	B	
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全教職員によるあらゆる教育活動を通じた生活指導を徹底するとともに、マナーを向上させることで規範意識と社会人基礎力を高める。	B	<p>あらゆる教育活動を通して、生徒の規範意識と社会人基礎力を高める指導ができた。効果的な生徒指導の模索や生徒実態に応じた指導の在り方については、今後も検討する必要がある。</p> <p>交通安全教室を実施するとともに、毎朝の登校指導や校内巡視を行うことで生徒の授業規律や規範意識の向上、危機管理意識を高めることができた。</p> <p>人権旬間の設定による生徒への啓発や、生徒、保護者に寄り添った組織的な対応により、問題行動等の解消に向けた継続的な指導を実施できた。課題としては、外部機関との連携や生徒の更なる人権意識の高揚が必要である。</p>
		いじめ等の問題行動の未然防止	生徒の実態把握に努め、生徒密着型・問題解決型の生活指導により問題行動の未然防止に努める。	C	

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策（実践項目）	評価	成果と課題
生徒指導部	生徒指導	生徒会活動・部活動の活性化	加入率、継続性を高め、達成感・充実感を得られる部活動・生徒会活動を展開する。	C	部活動の加入率は向上しているものの、活発な活動と持続的かつ充実した部活動運営には課題が残る。次年度は、部活動やボランティア活動等、生徒が活躍できる場の提供と更に充実できる推進体制を整備検討する必要がある。
進路指導部	進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップの活性化や卒業生講話の実施	B	インターンシップは、農業土木コースの2年生に対して夏季休業中に実施。 進学セミナーは放課後実習や各種発表準備、補充等をきっかけに参加者が当初申し込み人数より減少した。学習合宿は、担任団等からの声掛けで参加が多かったが、生徒が積極的に参加することに課題がある。基礎学力補習は、卒業生の大学生学習ボランティアを活用することができた。参加申込者数の増加が課題である。 3年生の面接指導は外部講師の活用により、基本的なマナーや面接練習ができた。
		学力の向上	進学セミナー、学習合宿、基礎学力補習の更なる充実	B	
		社会人基礎力の育成	日常の指導に加え、外部講師を活用して、マナーや職業観を身に付けさせる。また、手帳を活用して、社会人基礎力のひとつである自己管理能力を涵養する。	B	
保健部	特別支援教育の推進	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために特別支援教育を推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実させる。	定期的な特別支援教育会議を開催するとともに、必要に応じたケース会議を開催する。 複数の特別支援教育コーディネーターによる実態把握と外部機関との連携を推進する。 個別の指導計画の作成及び定期的な見直しをする。 卒業後の進路先へ個別支援計画の引き継ぎをする。	B	特別支援教育会議を定時4回、臨時1回開催し、のべ112名の生徒情報を共有することができた。 特別支援を要する計5名の生徒の進路実現に対して、外部機関を含めたケース会議を複数回開催することができた。 個別の指導計画の作成・見直しを呼びかけることができたが、定着できるまでには至らなかった。 ゴミ分別の啓発ポスターの作成や分別の呼びかけを、継続して行うことができた。 各学年2回の保健学習を実施できた。また、熱中症や危険生物等の注意喚起を、時機に適して実施できた。
	校内美化の推進	ゴミの分別など環境を守る意識を養う。	美化意識を向上させるための啓発に取り組むとともに、ゴミの正しい分別ができるような清掃指導を確実にを行う。	B	
	健康・安全教育の推進	基本的な生活習慣と健康についての日常的な取組に加え、性教育、がん教育、薬物乱用防止教育、危険生物に対する教育を実施する。	HR担任と協力し、健康・安全教育に取り組む。	B	
総務部	生徒募集	学科改編を府下中3生に周知するとともに、本校の教育システムやコースの特徴を理解した目的意識のある志願者を獲得する。	オープンスクールの実施回数や内容は維持しつつ、これに合わせて行っていた中学校訪問の回数を増加し、訪問範囲も拡大する。また、ホームページや学校紹介パンフレットを刷新し、作成部数も増やし、府下中3生に広く配付する。	B	生徒募集についての各事業については、計画段階での狙いを達成することはできた。 学科改編に関する広報を行い広く周知させるとともに次年度に向けた計画を早期から示した。

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)		成果と課題
総務部	広報	学科改編に合わせ、ホームページ、学校紹介パンフレットなどの内容を刷新し、新しい学校イメージの構築に努める。	スマートフォンやタブレットで使いやすく、分かりやすいホームページを作成する。また、外部委託していた記事更新を校内で可能な仕様に變更し、管理しやすいものとする。さらに SNS と連携させて発信力の高い広報媒体となるよう工夫する。 学校パンフレットでは、学科改編を大きく取扱い、3 学科構成、ACCESS、コース改編が、新しい学習指導要領の理念を反映しつつ、生徒の力を向上させ、進路目標達成につながることをアピールできるよう工夫する。	B B	ホームページに関して、公開時期は2月末となったが、新学科に対応した内容で、スマートフォンでも閲覧しやすいスタイルへと移行させることができた。 学校紹介パンフレットについては、学科改編の動きと連動し、ページ数を削減しつつも、新学科や新コースの特徴や魅力を伝えられるものとなり、オープンスクールの参加者増にもつながった。
	P T A	生徒の教育活動充実のため、PTA 会員と連携して取り組む。	年間計画に基づき、本部役員会、運営委員会を開催し、従来からの活動を維持・充実させるとともに、府高 P 連口丹ブロック理事校として全高 P 連京都大会開催の成功に貢献するよう努める。	B	PTA 活動については、府高 P 連理事校として京都大会第二分科会の運営に携わり、運営主体の須知高校との連携において、PTA 本部役員と運営委員、会員と協力し、分科会の成功に貢献した。 一方で、役員や各種行事運営に携わっていただいた会員の業務負担増が課題となった。
農場部	農場管理・運営	適切な農場運営と安全を確保した実験・実習の展開	学科・事務部と連携し、農場運営に必要な経費の確保に努め、より効果的な実験・実習を展開する。	B	1 成果 (1) 学科改編に向けて、3 年間の学習指導計画の作成ができた。 (2) 土壌消毒機や環境緑地科倉庫の更新など、施設・設備の更新を行った。 (3) 農ク全国大会、府連大会で入賞することができた。 (4) ブラックアンドホワイトショー、若年者ものづくり競技大会、技能五輪全国大会で入賞した。 (5) 近隣宿泊施設との連携も2年目を迎え、大規模な作庭、定期的な販売実習が実施できた。 (6) 3年目となった農芸感謝祭は定着し、農業クラブ学習成果発表会を企画し、実施できた。 (7) 「トマト」でのGLOBAL G.A.P. が継続認証され、農と里を支える担い手育成事業も活用できた。 2 課題 (1) 実験実習費の削減(10%減)が取り沙汰され混乱した。今後の動向により、運用について協議する必要がある。 (2) 学科改編に向けた施設・設備の更新・修繕が十分とはいえず、予算も確保できていない。 (3) 各種発表会・競技会で入賞はできたが、最優秀は少なく、十分な指導ができていない。 (4) 農業クラブ全国大会農業鑑定競技会には8名が出場したが、入賞1名という結果であった。 (5) 農業クラブ行事のマニュアル化を進める必要がある。
			生産工程管理や農業の6次産業化の視点で、施設・設備を改修し、学科改編を円滑に実行する。	C	
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会において、府連大会、全国大会での入賞を目指した指導を行う。	B	
			資格取得・各種コンテスト・ボランティア事業・地域連携事業など、クラブ員が活躍できる場を数多く提供する。	B	
特色化事業	専門高校としての特色ある活動の推進	府立高校特色化事業や京都府農林水産部各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。	B		

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題
寮務部	寮教育 寮運営	寮生活と学習を密着させ、自己有用感の高揚を図るとともに、自己実現に向けて努力することのできる生徒を育成する。	自発的な挨拶の定着と基本的な生活習慣の確立を図り、社会性を身に付けさせ自律を促す。また、定期的に寮生集会を実施し、寮生同士の結束と農芸高校生としての帰属意識を高める。	B	1 成果 (1) 重点目標については、一定の成果があったと考える。特に、基本的な生活習慣を確立させることができた。 (2) 定期的に寮面談をすることで、生徒の不安を取り除き、スピード感をもって個に応じた対応することができた。寮生集会では、集団指導をすることで集団意識の涵養を図ることができた。 (3) 各教科担当からの学習課題により、学習習慣を定着することができた。 2 課題 (1) 自らの進路を意識し、主体的に学習する姿勢の醸成には大きな課題が残っている。舎監による協力と指導体制の再構築が必要である。 (2) 自ら挨拶することを定着させられなかった。寮だけの指導ではなく、通学生も含めて学校全体での指導の徹底が必要である。
			学習時間を有効活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	B	
		厳しくも、温かく気持ちのある指導を実践し、きめ細やかな生活指導と規範意識の向上を図る。	生徒の悩みや困りに耳を傾け個々の生徒の実態を把握し、人間としての在り方や生き方を考えさせ、社会人基礎力を養う。	B	
第1学年部	指導方針	基本的な生活習慣、学習習慣の定着	学校生活、寮生活を通して、基本的な生活習慣の確立を図り、日々の授業を通して学ぶことの大切さ、学びの意識を変え、「自ら学ぶ姿勢」を確立させる。	C	1 成果 (1) 男女とも寮生活や遠距離通学を通して、基本的な生活習慣は身に付けられた。 (2) 学習習慣の定着においては、男子生徒は寮課題、女子生徒は自宅での課題をこなすことで机に向かう時間を確保できた。 2 課題 (1) 「自ら学ぶ姿勢」には多くの生徒に課題が残った。 (2) SNSをはじめとする人間関係のトラブルについて、適宜指導は入れたものの解決に導くことができなかった。 (3) 部活動に励んでいる生徒は一生懸命取り組んでいるが、加入率は低い。ボランティア活動への参加も特定の生徒に偏りがちであるため、呼びかけを工夫する必要がある。
		他者への思いやりを忘れず、豊かな人間性を育む指導の充実を図る。	自己・他者を尊重する豊かな心を育むために、何げない冷やかしたり悪ふざけについても適宜指導できるよう各分掌・教科との連携を密にし、いじめを許さない土壌を醸成する。	C	
		部活動、ボランティア活動等に積極的に参加を促し、帰属意識を高める。	部活動、ボランティア活動等を通して、帰属意識を高めるとともに、他者と積極的にコミュニケーションをとり、社会人基礎力の土台を作る。	C	
第2学年部	指導方針	学習指導・生徒指導・生活指導・進路指導を基本として、指導方法の工夫・改善を行う。	自発的な挨拶や学習習慣を定着させ、進路実現を見据えた意識付けを行い、社会性の涵養を目指す。	C	1 成果 (1) 考査1週間前、考査期間中には学習会(7時間目)を1年間継続して行うことで、学習することの意識付けができた。 (2) 修学旅行では、集団行動を意識し、学年全体での取り組みが実現できた。 (3) 3年生と交流する場を設け、進路実現に向けた取り組みができた。 2 課題 (1) 手帳の活用やスマホの使用マナーについて課題が残った。 (2) 進路実現に向けた取り組みを行ったが、学習面や資格取得、ボランティア活動など、積極的に取り組む生徒が昨年より減少した。 (3) 挨拶や服装指導を徹底させることができなかった。 (4) クラス運営では、仲間意識を持つことやメリハリやけじめをつけることができなかったなどの課題が多く残った。
		協力・協働の集団を目指す指導の実践	修学旅行をはじめとする学校行事において一人一人が活躍できるステージを持てるよう指導する。	C	
		自己管理能力の向上を目指す指導の実践	基本的な生活習慣の確立と挨拶・服装などのマナー指導の徹底、及びスマートフォンとの付き合い方に関する指導を重点的に行う。また、日々の記録を手帳管理することで、自らの行動を律し、進路実現に向けた予定の管理や自己実現への行動につなげられるよう指導する。	C	

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題
第3学年部	指導方針	希望進路の実現と学び続ける姿勢を育む指導の実践	卒業後にそれぞれが選んだ進路先で活躍できるよう学び続ける姿勢を育むとともに、進路決定において高校生活全ての成果を発揮できる指導を行う。	B	1 成果 (1) 一般常識小テストや面接練習など希望進路に応じた指導を行えた。 (2) 手帳の活用やスマートフォンの使用、卒業後の生活設計など自己管理に関する指導を行えた。 (3) 他学年との合同ホームルームを実施し、最高学年としての役割を果たす機会を設けた。 2 課題 (1) 進路指導に関する生徒情報の発信や共有については、さらに組織的に管理することで効果的な指導体制を整える必要がある。 (2) 3年間の成長を見通した LHR の在り方や学校行事との関わり方を整理する必要がある。
		自己管理の大切さを知り、安定した生活基盤を定着させる指導の実践	手帳の活用などから規則正しい生活習慣を定着させて、心も身体も自己管理できる自立(自律)を目指す。	B	
		社会性を高め、これからの人生を豊かにしていこうとする人間性を育む指導の実践	最高学年として行動することで、他者を思いやる心を育むとともに、社会に出るための心構えの定着を目指す。	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○本校の教育について (1) 農芸は、先生と生徒の距離が近いことが魅力的だと思う。(2) 土、動物、作物栽培等の体験的な取組が人を育てる。(3) 実習で栽培された作物を食べることが大切。食育や商品開発につながる。(4) 募集定員が充足していない状況であるが、教職員の定数は充分確保できるのか。(5) 校外での生徒指導も大切である。農芸の評価にも影響するのでは。(6) 学級通信に子ども達の感想を多く記載してほしい。(7) 寮生活がいやになる生徒への指導方法の工夫</p> <p>○授業参加について (1) 全体的に落ち着いている。昨年より生徒が落ち着いて授業を受けていたのでよかった。(2) 先生が生徒一人ひとりを理解いただいている。(3) 3年生の人権学習は、生徒にとっては難しい問題であり、資料だけで理解することは難しいと思われるが、DVDを視聴させることは、生徒の理解を深める展開につながりよかった。(4) 3年生にとっては、就職は切実な問題であるため前向きな姿勢で熱心に取り組んでいることに感心した。(5) 先生と生徒の距離感がフレンドリーな関係で良い。(6) 説明の仕方、授業規律も指導されておりよかった。(7) 先生の指導にメリハリがありよかった。</p> <p>○農業クラブ・生徒会本部役員との座談会について(生徒10名参加) [委員の皆様からの主な質問] (1) 農芸高校を志望した理由 (2) 農芸高校へ入学して良かったこと。(3) 学校で学んでいること。(4) 寮生活について。(5) 日本の農業について、どのように考えているのか。生徒から直接、意見を聞くことができるため、たいへん好評であった。</p> <p>○令和元年度学校評価アンケート(総括)について (1) 昨年度より回答率が上がったことは評価できる。学校は何か対策をされたのか。(2) 保護者もアンケートに関心を持っておられる。学校の状況を把握され、学校の周辺も視点に評価されている。是非、保護者の意見として、学校運営に反映していただきたい。(3) いじめ防止は、学校の取組と生徒の SNS に係わる実態との間を埋め、子ども達にどのように訴えていくかが大切だと考える。子どもは SNS の意見に影響される割合が高いため、学校での指導の在り方を工夫する必要がある。(4) いじめ防止対策や人権に関する指導は、全体指導をする時期が大切であり、計画的で継続的な取組が必要である。また、職員研修とリンクさせた適切な指導も必要である。(5) いじめの指導は、あからさまないじめは指導しやすいが、SNS が絡むと解決は難しいと思われる。保護者との連携が重要である。(6) 進路指導に関わって、学年通信で保護者に進路に関する情報を提供されていることが、良い評価につながっていると思う。(7) 一般的に離職率が高いと言われている。子どもが仕事を辞めたいと相談された時、親としても対応が難しくなっている。(8) 生徒がやりたい仕事について、保護者と話ができていとおもわれる。評価できる。(9) 寮の規則は、普段の生活と大きく異なるため、寮での生活指導は、たいへん重要であると思う。(10) かつては、部活動のチームワークが、いじめを防止していた側面があった。(11) 担任の力は大きい。生徒の中でリーダーシップがとれる子どもを育てて欲しい。</p>
-------------------------	---

次年度に向けた改善の方向性

管理職

(1) 教職員の働き方改革に伴い、学校評価と連動した業務改善を図り、教職員の負担軽減を一層推進する。(2) 新学習指導要領への円滑な移行や学科改編に伴う ACCESS の趣旨の実現を目指し、学科改編を成功させる取組を一層推進する。(3) 社会の急激な変化を見据え、教育課題が複雑化・多様化する中で、生徒の学力向上や進路実現を目指した組織的で計画的な対応・取組を推進するとともに、個々の生徒の実態を把握し、合理的配慮を要する生徒は外部機関と適切に連携し特別支援教育を推進する。

事務部

(1) 援護制度については、制度の周知だけではなく、内容についての理解を深めてもらうためにも、丁寧な説明を心がけていく。(2) 予算執行にあたっては、教育活動を第一に考えるとともに常に「費用対効果」を意識した執行に努めていく。

教務部

(1) 新学習指導要領の趣旨に沿った教科指導に円滑に移行できるよう、日々の授業実践に努めるとともに、授業規律の確保に向けた環境整備 (2) 新学科の目標達成に向けた教科教育や評価の在り方についての研究 (3) 成績不振者の低減に向けた取組検討 (4) ICT教育、スマートスクールの実践に向けた情報教育の環境整備 (5) 令和4年度入学生教育課程の検討

生徒指導部

(1) 生徒の規範意識の高揚とマナー指導の徹底 (2) 生徒の特性を理解した効果的な指導方法の模索 (3) 生徒の実態に応じた特別指導の在り方の検討 (4) 交通安全教室の継続実施と交通安全指導（自転車）の徹底 (5) 部活動の活性化と、生徒が主体的に活動する生徒会体制の整備 (6) 全教職員が一体となり人権教育を含めた指導体制の確立と、組織的な生徒指導体制の構築 (7) 情報モラルの向上やSNSトラブルに関わる啓発活動の整備

進路指導部

(1) 新しい大学入試制度ができたときに対応できる生徒の育成 (2) 進路決定後の生徒に対する指導 (3) 生徒個々の進路指導方針を早期に決定するためにも、進路検討会を実施する。(4) 進路部内の業務の汎用化を更に進める。(5) 手帳使用に関するガイダンスを実施し、啓発に努める。

保健部

(1) 今年度に引き続き複数のコーディネーターを配備し、実態把握及び具体的支援を推進できるよう努める。(2) ICT活用の具体的方法やカウンセリングルームの運用について取り組む。(3) 学年COとの連携を密にし、適時適切な会議の開催と情報の収集と発信に努める。(4) 個別の指導計画の作成・見直し・評価が定着していくよう努める。

総務部

(1) パンフレット配付とポスターの早期作成配布や、オープンスクール、中学校訪問の日程、内容の変更とこれに伴う効果、課題の整理 (2) HP活用に関する研究や、校内研修会の開催 (3) PTA役員会での事業運営の微調整と日程変更に伴う課題の整理

農場部

(1) 実験実習費の適切な運用、学科改編に伴う施設・設備の更新・修繕を継続して実施する。(2) 農業クラブ活動をさらに活性化し、最優秀に入賞できる指導体制を検討する。

寮務部

(1) 生徒の健康や衛生に関わる施設設備の老朽化対策及び新設の検討・実施 (2) 災害時における寮生の動静確認及び災害非常食の常備 (3) 設備上の課題に伴う入寮期間の短縮化を継続実施し、利用する生徒数を調査・検証 (4) 管理職と連携し舎監業務後の休息時間の確保及び専任舎監配置の検討 (5) 寮生集会等で食育を実施、食品ロスを減少させる。

第1学年部

(1) 生徒が主体となって、HR運営ができるよう指導を行う。(2) 携帯電話・スマートフォンの利用については、改めてルールを徹底し、そのようなツールに依存しない生活を送れるよう生徒達に考えさせる。(3) 進路指導部と連携を図り、早期に進路に向けた取り組みを進めていく。(4) 具体的には、オープンキャンパスへの参加、インターンシップ等 授業の様子や課題の取組状況を把握するため定期的に教科担当者会議を実施する。(5) 資格取得やボランティア活動に積極的に挑戦するよう、呼びかけにも工夫をする。

第2学年部

(1) 手帳の活用について継続して指導にあたる。(2) 進路実現に向けて、面談を定期的実施する。(3) 最高学年としての意識をさせ、学校全体をリードする責任を自覚させる。(4) 生徒の実態把握と情報共有を徹底し、教科や分掌と連携を密に行い、一人一人の進路実現に向けて協力体制を整える。

第3学年部

(1) 進路指導に関する生徒情報の発信や共有については、さらに組織的に管理することで効果的な指導体制を整えたい。特に資格取得等の管理については担任では把握できないものが多く管理体制の構築が必要である。(2) 3年間の成長を見通したLHRの在り方を整理し各学年で共有することで、日々の生活や学校行事をより効果的なものにした。(3) 高い進路目標を持たせる雰囲気や、それを支える指導体制を持ちたい。(4) 保護者との連絡をスムーズに行う方法が必要と感じる。

人権教育

(1) あらゆる教育活動を通じた人権教育の推進のための教職員の人権意識の高揚 (2) 適切なSNS使用、授業規律の確保を含む人権侵害を許さない学校風土の醸成 (3) 位置づけを含めた啓発活動の推進による人権学習参観者（教職員）の増加 (4) 人権学習指導等への活用のための各種人権研修会の教職員への周知と参加促進 (5) 人権教育推進のための各種関係機関、地域の人権センター等との連携